

室短縮率との間に正相関 ( $r=0.777$ ,  $p<0.05$ ), 左室拡張末期径・収縮末期径との間に負の相関 ( $r=-0.694$ ,  $r=-0.825$ ;  $p<0.05$ ) が認められた. AS では H/M は心室中隔壁厚と正相関, 左室収縮末期径と負の相関傾向にあった. PV では左室径・左房径と弱い負の相関があった. 弁膜症における MIBG の心筋集積には疾患別に特徴があり, 弁置換術後の心機能評価にも利用できると考えられた.

### 9. 急性心筋梗塞症における再灌流療法前後の血流評価

河合 裕子 青木 健郎 阿部 秀樹  
 太田 茂樹 木住野 皓 野崎 洋一  
 南 勝晴 (北光循環器病院)  
 望月 孝史 塚本江利子 玉木 長良  
 (北大・核)

[目的] 急性心筋梗塞症に対する再灌流療法前後の血流評価を  $^{99m}\text{Tc}$ -tetrofosmin (TF) SPECT を用いて検討した. [対象と方法] 急性心筋梗塞症 15 例を再灌流療法施行 6 時間以内 8 例 (A 群), 6 時間以上 7 例 (B 群) にわけた. TF を投与したのち, PTCA を施行, 1 時間半以内に SPECT 像を撮像した. さらに 1 週間, 4 週間前後に TF の撮像, 数日後に冠動脈造影を行った. SPECT 像の集積程度から defect score (DS) を求め評価した. [結果] 1) 1 週間目には A 群, B 群ともに血流は改善したが, A 群の方が顕著であった (A 群 = 14 → 8, B 群 = 19 → 13). 2) 4 週間目でも A 群は血流改善したが B 群では 1 週間目とほぼ変化なかった. [結論] 急性心筋梗塞症における再灌流療法前後の経時的な TF 心筋 SPECT により心筋 salvage 効果が評価できた.

### 10. 肥大型心筋症における TI/BMIPP 像と局所壁運動の検討

市川 和弘 (北海道循環器病院・放)  
 藤原 正文 (同・循内)  
 藤原 嗣允 大堀 克己 (同・心血管外)  
 中田 智明 笹尾 寿貴 田中 繁道  
 (札幌医大・二内)

肥大型心筋症 (HCM) 67 例, 圧負荷心 (大動脈弁狭窄/高血圧) 23 例, 健常者 11 例を対象に, TI/BMIPP 心筋 SPECT にて両者の集積乖離を視覚的に半定量評

価. BMIPP 集積低下型乖離の頻度は HCM 群 (86%), 圧負荷心 (65%) と対象群 (10%) に比し高頻度. 各群の乖離部位は圧負荷心が心尖部・前壁, 非閉塞型 HCM / 心尖部肥厚型ではやや心尖部, 閉塞型 HCM では中隔側に比較的高頻度. HCM 進展期 (拡張相/左室駆出率 45% 以下) では, BMIPP 欠損型乖離は 60% と高頻度. 非進展期 HCM では乖離に一致した壁運動異常を 1 例にのみ認めた. TI/BMIPP 集積の比較は肥大心における病期進展度評価に有用と考えられた.

### 11. 待機的 PTCA 直後の $^{123}\text{I}$ -BMIPP 心筋シンチグラフィ所見についての検討

松木 高雪 山内 一暁 土田 哲人  
 現田 聡 (新日鐵室蘭総合病院・循)  
 足永 武 小早川 洋 國本 清治  
 野村 直人 (同・内)  
 山口 康一 (同・透析)  
 高野 正幹 (同・放)

[目的]  $^{123}\text{I}$ -BMIPP 心筋シンチグラフィに及ぼす待機的 PTCA の急性期の効果を検討. [対象] 労作性狭心症患者 5 例 (男性 3 例, 女性 2 例), 平均年齢 66 歳. [方法] 安静空腹時に 111 MBq の  $^{123}\text{I}$ -BMIPP を静注し, 20 分後より安静時 SPECT を撮像. 待機的 PTCA 前 1 か月以内に PTCA 前の撮像を行い, 待機的 PTCA 後 8 日に撮像した 1 例を除いて 2 日後に, PTCA 後の撮像を行った. [結果] 1) 5 例中 2 例に待機的 PTCA 後に  $^{123}\text{I}$ -BMIPP uptake の低下を認めた. 2) 5 例中 1 例は待機的 PTCA 後に  $^{123}\text{I}$ -BMIPP uptake の増強を認めた. 3) 他の 2 例は  $^{123}\text{I}$ -BMIPP uptake に PTCA 前後で変化を認めなかった.